

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	1311051000685
施設名	にじいろ保育園東が丘
施設所在地	目黒区東が丘1-29-22
法人名	ライクキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

我が園の隣にはブドウ園があり、「ぶどうってどうやってできるの？」実がなるまでの不思議さを子供達と観察していきたい。

植物の成長、生き物との関わり、季節の移り変わりなど興味をもてそうな要素がたくさんあります。

食べ物ができるまでの過程を知り、命のつながりに気づく事や、植物の成長の過程に興味を持ち自然の不思議さを感じたり、地域の人や自然の触れ合いを通じて豊かな感性を育むことができますからです。

2. 活動スケジュール

ブドウ園を見学 7月からだとブドウの花を見る(小さいのでわかりにくい)この花がぶどうになるの?の不思議さ・驚き 受粉の話なおど何回かに分けて出かけ見せてもらったり、話を聞く。

実が膨らむ様子を観察(色の変化・形・匂いなど)実際のぶどうも収穫させてもらえたらする。育てる人の工夫や大変なことを聞く。

葉っぱの色づきや散り方に注目したり枝・つるを観察・触ってみる。

そこからクリスマスにリースづくりができればと思っています。ほかに粘土遊びで表現したり、観察画を描いたり、成長を記録して継続性をもたせていきたい。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

隣接するぶどう園との協働で、見学をさせていただく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・隣のブドウ園に行き、木の観察や花が咲いていたら見せてもらう。
ブドウ園のオーナーに話を聞く
- ・ブドウのふくらみなどを見に行く
- ・収穫してみる、収穫後の葉っぱの様子など観察する
- ・枝・つるを見せてもらったり、観察したりする。
- ・冬に行くことを質問しに行く
- ・毎月、様子を見に行く。いろいろな気づき・話を聞く・その他

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・園主からぶどう園で育てているぶどうの種類や成長過程の話を聞きながら、見学を行う。

<子どもの姿>

- ・「ぶどう園にあるぶどうの種類はどのくらいある？」と問いに対し、「7本」「8本」と意欲的に手を挙げて答える姿が見られた。その後、ぶどうの木が約30本あることを知ると、「多いね!」と、子ども同士で驚きや気付きを共有していた。
- ・生育初期のぶどうの木を観察した際には、大きさについて「こんなに小さいんだね」と話していたが、1年を迎えた木を見て「こんなに大きくなるの?」と、発言し、1年間の成長の大きさに驚く様子が見られた。
- ・ぶどう園内を歩き、5、6年目の木の場所へ移動する、ぶどうは5、6年目で大人の木になることを知り、「自分たちはまだ大人じゃないのにね!」と、人との成長の違いに気付き、驚きや不思議さを感じている様子であった。
- ・5、6年目の木には目が出ており、目が折れたり傷ついたりすると育たなくなることを教えてもらい、命の大切さにも触れる機会となった。また、「4月になると葉が出てくることを知り、「次来る時は葉っぱが見られるかもしれないね!」と、期待を持つ姿も見られた。
- ・ぶどう園にはオオイヌノフグリやホトケノザが群生しており、オオイヌノフグリが咲くとぶどうも芽を出し始めることやホトケノザが多く生えている畑は土の状態が良いことも知り、自然への関心を深めていた。
- ・帰園後、電子黒板を使用してぺんぺん草、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、の観察を行った。花卉や葉脈等細部まで観察することができ、「こんな形をしているだ」「ここに線がある」と、気が付いたことを言葉にしながら意欲的に観察する姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

<学び気付き>

- ・ぶどうは、大人の木になるまで5、6年かかることを知り、人間との成長の違いに子どもたちなりに気が付いていた。

<環境・援助>

- ・前月に続き、園主が問いかけを交えながら、説明したことで子どもたちが考えたり、気付いたりする場面が多く見られた。

<評価>

- ・次月は、ぶどうの芽から葉がでていく様子を見に行く為、期待をもってぶどう園に向かうことができるように準備を進めていきたい。今回は、人間と植物の成長の違いにも気が付く貴重な体験となった。